

第5回幼・保・小合同研修会

と き 平成28年11月17日(木) 午後3時～午後4時40分
 ところ 郡山市総合福祉センター5階集会室



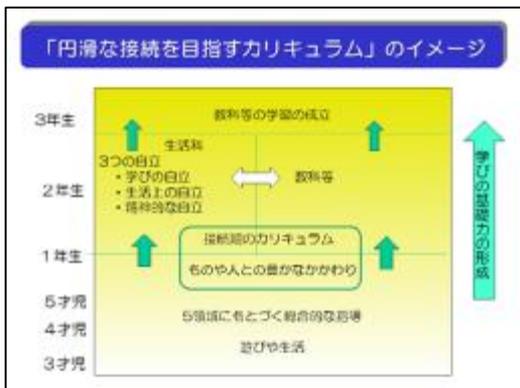
講演・演習 「質の高い教育・保育を提供するために
 ～幼保と小の円滑な接続を視点に～」
 講 師 國學院大學 教授 神長 美津子先生

講師は、長年幼児教育に携わり、中央教育審議会の委員でもあることから、幼保と小の教育の基本や連携について、また幼稚園教育要領や保育所保育指針の改定を含めたお話をしてくださいました。一部を紹介します。



講演の概要

- 幼保小の連携には教育の段差、子どもの実態、小1プロブレムといった背景がある。幼児期の教育と小学校教育の比較しその違いを「尊重すべき違い」として受け止めて円滑な接続を図ることが重要である。現行の幼稚園教育要領・保育所保育指針・小学校学習指導要領においても連携について述べられているように連携にはさまざまな取り組みがある。
- 接続を教育の目標・目的、教育課程編成、教育活動の展開の3つの段階からとらえ、学びの基礎力の形成される過程を、「円滑な接続を目指すカリキュラム」として図式化した。幼保での遊びや生活の中でいろいろな経験を積み重ねる総合的な指導から、小学校で教科等の学習が成立していく過程をイメージしてほしい。



幼児教育における「学び方」

○自発的な活動としての「遊び」は学習である

幼児教育における「見方・考え方」は、
 幼児がそれぞれの発達に即しながら、
 身近な環境に主体的に関わり、心動かされる体験
 を重ね遊びが発展し生活が広がる中で、
 環境との関わり方や意味に気づき、
 これらを取り込もうとして、
 諸感覚を働かせながら、
 試行錯誤したり、
 思い巡らしたりすることである。

- 中央教育審議会では、2030年の社会に向けて生きる力を身に付けるための育成すべき資質・能力を3つの柱として示した。幼児教育においても、3つの柱と幼児期の終わり（5歳）までに育ってほしい姿を10項目にし、検討を進めている。10項目は、「～ようになる」という語尾であらわされているが、それはこのような姿で小学校へ送り出したいという思いをあらわし、小学校へ子どもの発達を伝えていく視点となる。幼保では、自発的な活動としての「遊び」は学習であるということを確認し、幼児の活動の姿から「育っている姿」「育っていく姿」を読み取ることが必要となる。

幼児教育において育成すべき資質・能力の3つの柱

「18歳段階で身に付けておくべきことは何か」を踏まえて

- ・「生きて働く知識や技能の修得」の基礎となる体験
（遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気づいたり、何がわかったり、何ができるようにするのか）
- ・「思考力・判断力・表現力等の育成」の基礎となる体験
（遊びや生活の中で、気づいたこと、できるようになったことなどを使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか）
- ・学びに向かう力、人間性等の涵養
（心情、態度、意欲が育つ中で、いかによりよい生活を営むか）

幼児期の終わりに育ってほしい姿の再整理イメージ（大まき白）

大項目の再整理

幼児期の終わりに育ってほしい幼児の具体的形象(案)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生き生き	数・図形・文字等の関心・探究	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

- これからは評価のあり方が大事で、一人ひとりのよさを捉えることを基本に、子どもの姿からカリキュラムの見直しや自身の保育のありようを振り返ることが大切である。そのためには、日々の記録をいかに整理しカリキュラムの見直しにつなげていくか検討していかななくてはならない。ポートフォリオの蓄積も含め、記録のあり方の工夫が大切である。
- 幼保小連携は「あるところ」でそれが終わるのではなく、「18歳に向けてどう育てていくか」という中で、幼保小がよりよくなつていくことが大事である。
 高校終了までの期間を見据え、幼保の先生方と小学校の先生方が協力して豊かな学びの実践をしてほしい。

参加者の感想の一部

- ・ 「遊び」は学習ということで、遊びがいかに大切かということがわかった。子どもの発達に合わせた指導がしっかりできるようにしていきたい。
- ・ 「幼保小連携」と聞くと小学校に近づけるような保育や教育を考えるが、小学校に向けて幼児の健やかな成長のためにいろいろな体験ができるような環境を十分に与え、生活や学習の基盤が大切なんだと気づかされた。
- ・ 完全にできることではなくて、見通しを持って自ら行うことや、学ぶ楽しさを知ることなど幼児期に大切なことが、今自分が担任している子どもたちに育っているのか生活の様子を思い浮かべながら受講させていただきました。記録に追われる毎日となっている気がしますが、もう一度見直し整理してみたいと思いました。